

出生数過去最少75万人

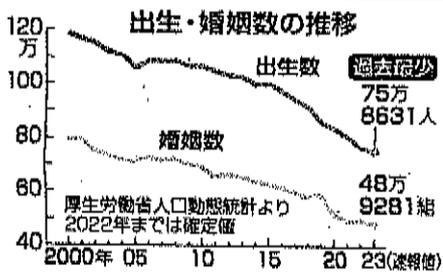
厚生労働省は27日、2023年の人口動態統計の速報値を公表しました。年間出生数は75万8631人と、8年連続で過去最少を更新。初の80万人割れとなった前年の速報値(79万9728人)と比べ、4万1097人(5.1%)減少し、

1983年の約150万人から半減しました。新型コロナウイルスの感染拡大で20、21年の婚姻数が戦後最少を更新したことなどが影響したとみられ、少子化の加速化傾向が鮮明となりました。

厚生労働省の担当者は「晩婚化、晩産化の傾向に加え、コロナが婚姻活動や出産に影響した可能性がある」と話しています。

国立社会保障・人口問題研究所が23年に公表した将来推計人口では、56年に1億人を割り、70年には8700万人まで減ります。

年間出生数は、第1



次ベビーブーム(1947〜49年)で約270万人、第2次ベビーブーム(71〜74年)で約210万人に上りま

した。91年以降は増減を繰り返しながら、2016年には100万人、19年には90万人、22年には80万人を下回りました。

婚姻数は48万9281組で、前年から約3万組減少しました。コロナ禍で大幅に減少し、22年は反動でわずかに持ち直したものの、再び大きく下振れしました。

死亡数は、過去最多

の159万503人で、3年連続の増加。死亡数から出生数を引いた人口自然減は83万1872人と17年連続で減り、過去最大の減少幅となりました。

速報値には、国内在住の外国人や海外にいる日本人が含まれません。今後公表される確定数は、日本に住む日本人だけが対象で、速報より少なくなりま